

回覧

元気なコミュニティだより

二宮町百合が丘 2-29-6(2 丁目会館) 090-5211-6891 <https://gen-comi.jp>**健康・交流拠点作り提案****神奈川県との協働事業、3 年計画で**

ゲンコミは 7 月末、神奈川県に対し、県福祉・健康部局との協働事業による「県営なのはなハイツ健康・交流ステーション形成事業」の提案を提出した。県の基金を使う公募制度を活用し、これまでの事業蓄積と県の専門部局の取り組みを組み合わせるもう一步進んだ地域の健康づくり体系の構築を目指す。この提案の採否が判明するのは来年初めになる。

上記の事業名には、「未病改善・介護予防・社会参加を一体的に推進する県営団地モデル」の副題がついている。実施は R9 年度からの 3 年間。提案によると、初年度の総事業費は約 370 万円。そのうち 160 万円は県の助成を見込んでいる。現在の健康団地 CR 部会が基盤になる健康づくり、生涯学習・デジタル・音楽活動部会を基礎にした高齢者の社会参加を二本柱にする。



ヨガ教室は毎週開催の希望も出ている

なのはなハイツ自治会(間瀬よね子会長)とともに、ゲンコミがなのはなハイツ CR・広場の運営管理にかかわってからはほぼ 2 年。地域の団体・サークルへスペース貸しをする一方、ゲンコミの部会事業、独自企画事業をここに集約してきた結果、延べ利用者は月間約 800 人ほどに増えている。これに神奈川県の専門部局の活動を加え、相乗効果や新しい企画を追求することで更なる地域貢献が期待できると見る。

ゲンコミとしては、この新規展開を通じて懸案の財政の自立、一般社団法人への移行、有償ボランティアを核にした運営体制の確立を目指している。

百合が丘自治会の回覧文に異議、ゲンコミ見解

百合が丘自治会は 6 月末の回覧で前月に続き一方的なゲンコミ批判を流しています。しかも今回はその文書を一色、緑が丘の団体幹部にまで配布しています。その発信内容によって誤解が広がることのないよう、以下に当協議会の見解を掲載します。なお、自治会の 6/25 付け回覧はゲンコミ HP に。HP にはこれまでの両者のやり取りも載せてあります。

(HP は、「ゲンコミ×ホームページ」で検索できます)

山本正博・緑が丘自治会長 様、近藤 優・一色地区会会長 様

ご承知と思いますが、町北部地区のバス減便問題を取り上げた 2 月末のゲンコミだより 50 号を巡って百合が丘自治会と当方の中で軋轢が生じ、抗議と返答文書のやり取りがありました。その後、当方は静観してきましたが、百合が丘自治会はここにきて回覧網を通じて一方的な非難文書を配布し、6/25 付に至っては緑が丘、一色地区にまでその配布範囲を広げています。 **裏面へ続く**

今回の「元気なコミュニティ協議会との対応について(ご報告)」には、間違いと認識不足に基づく表現が目立ちます。放置して置くと、「元気な地域づくり」を目標に活動するゲンコミの信用に傷がつきかねないとの懸念があります。6/25 文書盛り込まれた新たな表現部分を中心に、当方の見解を簡潔に付記致します。両団体様におかれましては、この一文にお目通しいただき、関係する皆様に当方の見解をご説明くださるようお願い申し上げます。

以下、先方の新たな指摘と、それについての当方の見解です。

・「自治会長個人への連名要請を十数回繰り返した」→これはいかにも大げさで、誤解を招きかねません。「地域益のために一緒に行動しましょうよ」と提案し、緑が丘自治会の参加方針、二宮町部局の動きなど重要な場面ごとに判断に影響する情報を伝えてきただけのことです。これに対し、小口会長は、「判断は事務局長に任せている」と言うばかりでしたので、参加か否かはっきりしてほしいとの返事を問う場面が重なったと認識しています。方針決定をあいまいにすることなく、もっと早く NO なら NO を明確にしてもらえれば早々に次へと進めるはずでした。この表現では、まるでゲンコミによるパワハラがあったように印象付けようとしています、とんでもないことです。

・「自治会長の精神的疲労から人権擁護委員に相談し医療機関を受診した」→これは事実を確認できていませんが、地域協力・連携の下で、次の可能性を探ろうとする努力への配慮なく、「ゲンコミ(廣上)はひどい奴だ」ということを印象付けようとしているのは悲しむべきことです。

・「自治会の名誉を傷つけた」→50 号の掲載に当たってはその内容を事前にお伝えし、掲載後に予想される波紋についても会長、事務局長にきちんと伝えてあります。

・「ゲンコミ側の回答は反論のみで誠実な説明や謝罪がなかった」→2 度にわたる抗議文は一般的にも、社会通念上も理解しがたい内容であり、こちらも専門家に相談しつつ対応してきました。HP を見てもらえばわかるように、その内容、要求は通常理解を超えたものと判断しております。

・「他団体が自治会の確認なしに連名した」→この部分はもう一つ不明ですが、「経緯その2」は百合が丘自治会の了解なしにその名を入れた要望文書を作成した？——ことを指すように思われます。どの団体も要望書に名を連ねるかを決める前に、各団体の内部検討用の要望書の試案が必要であり(有力団体から要請)、「取扱注意」付きで団体トップに渡したのは事実です。

文書中には百合が丘自治会の名が入っていましたが、あくまでも望ましい姿での合意に向けた試案として作成したものであり、「了解なく勝手に名前を使った」との非難は理解不能です。地域内の複数の団体が意見調整する場合には、この種のプロセスはよくあることです。合意形成途上の「たたき台」を引っ張り出して「了解はなかった」との非難は的外れと言わざるを得ません。

・『このまま放っておくと笑いものになる』との発言があった→これも確認できていません。公式、非公式を問わず、いろんな声があるのはよくあることでしょう。

・「関与した一部のゲンコミ幹部は事実関係を認め謝罪した」→複数のゲンコミ幹部を呼んで、当方の動きを探ろうとしたことは当事者からの報告でも確認できています。しかし、「謝罪した」事実は確認できていません。仮にそのようなことがあったのであれば、謝罪の中身を明らかにしたうえで外部に流すべきであり、責任ある情報流布ではないでしょう。このような不明確で、誤解を招きかねない情報を第 3 者に流して相手にダメージを与えようとする手法は、長い間立派な実績を積み重ねてきたこの町を代表する自治会の行動とは思えません。全くもって残念な振る舞いだと思います。

以上のことを、当方が知る限りの事実をもってお伝え致します。

令和 8 年 7 月 4 日

文責 元気なコミュニティ協議会会長 廣上正市